

春色戀染分解三編中之巻

江戸

朧月亭有入之者

第十五回

朝あさ重しむの井い入い忠ちゆう六ろくがあすすがらあららら二にあらうう三さんととあらうう心こころ静しずか

あらううせせばば仕しすすぬぬ一いっつつとと紙かみ入いりりととささつつととささつつとと七しち灯とう籠かご死し

ええははのの折おり紙かみとと紙かみのの書かきををすすよよききのの時とき不ふ忠ちゆう六ろくむむとと

ととかかああるるををらら重しむのの井いががああつつとと押おへへとと人ひとのの藤ふじ息いき

をを考かんぐぐてて梳かみららじじややああららるるののととああららるるのの果はららるるけけす

トヨタウ
女希そんかこもーしうぬとあからず被是かこしうがたあひか

くくごりやう飛家かびーのる連海やそんかかこもーし

るののやいき手ハ居相入り高丁立ハあちり藤おそんかこ

味まッこくと緒たかやうんのお脅ハ飛こで出カカチヤ慮え

ごうりごうあついのびしきするまごうりごごあろおたのぞん

ハ重の井ハ盗人カ村角トロく藤はらてあて蒲密の下

のめそいれぞまんごのりおちるあつまうあれらごごあひひんのだ

あらしおめ人のおのかうを大名あも似合ね入ひつまあう自

春之已戀 漆分解 三編中之卷

江戸 朧月亭主人

第十五回

新之重の井へ忠六をいす ぐらあぐらにきう三三を呼ぶ心新
あつらせむはすぬーと紙入ぞそつとさぐと七打燈籠
こん彼のおお狐と紙の書ぞせよまきしるき時不忠六むつと
とおきあるぞりき重の井が手すまつとと押へおやい人の森息
を考え入て統さばじせまのやぐるるとらつんさけ果るるけけ

女帝そんまごもしくらぬとあつらふはむ被是るいひがたきなふ

くくごのやうに健良はがりの方連海やそんまごをいふ

このめのやいぎの手に居ね人り高し主の御ちり藤すをなぐと

時^よま^ごツ^こいと^め徳^りた^もふ^もや^りん^のの^お瘡^りへ^と飛^とんで^い出^き「^ナカ^チヤ^ク忠^ウを^ク

むうのさうあつこのさうすうりた「ごうらごころのおたをどん

六^ろ重^しの^の井^いの^の盗^ぬ人^にが^の折^を角^{かく}ト^とロ^く「^わ株^かは^のこ^のお^ので^の備^い室^{むろ}の^の下^{した}

のめをいれぞむんごのの糸ちりありまうせれるとごうけんのえ

まじしかめ人の木のやうな人知あも似合ね入ひつまあう自^あ己^れ

とつゝなごころの忠「マアせんまめの」とらるゝが様を清くしちせ

改メ様「モシ忠さんとやらよくしてなせん様さう」の盗人の

とにきたあぐ「ナニせんが別ふとられたりの由あぐことお

今もいなるあやふいそつれ不重の井の目うびるりのあ

るとぞらあ「まいあんでとせんやす」ナニ「」の抱せも

あいのサ様「まらあアどうせお由ま教ナりのちあア

ありあすあいなて「うりあるがあつあませさア和田様の子

注所「うりあるがあつあませさア」忠「ウヤまてん」せんあら

おのすとしらきさるのり忠「まろくく自己かららの不調法ちからりあうをさ

もまことろくぐい通まらうりトあやまる「まトやアモウウケンをふね人

のぞナ息「少ト由ウケまふあんぞん 嗚「そららちふあ死アところの

あらア忠「五嫁「まろくろあぐらるとらめとやが屋まらうで捨とららうさばじとららうの盗人

のとしらえち中ア何「ころ家業ウギヤウの邪トヤウノホありあすころ

まろくは踏ホ由ホまねえトくはくじろの孫せう子しをあけ

「サアサころのいお人こまきやうを伴タの町ちやう迄まをこまき出ぞさつトトのよ

り子まあく又ま六ちやうノウの忠ちやう六とを引ひまツかて表りの命ひト引ひす

幸^{さいち}るの^めが^まさ^ひら^う後^{ひら}と^う憂^うせ^まお^ある^べし^う現^{けん}ざ^い

う^きあ^や親^いも^い何^いお^ふら^うし^てど^ぞう^んま^うよ^しあ^ま

と^お教^けも^あら^まど^るの^さね^あ中^{ちゆう}心^{しん}も^お母^{はは}と^あり^た下^げ方^{かた}も^あら^ぬ

あ^いの^くく^しも^ア米^{こめ}町^{まち}と^あら^うも^らの^そや^さし^は今^{いま}抱^{かか}

た^のは^あ矢^やえ^んお^らし^ゆ今^{いま}の^は身^みお^あら^うど^せあ^らて^ら

一^い後^ごを^あら^うと^あり^お甲^か斐^ひ又^{また}あ^らい^まお^らや^せお^らを^あら^う人^{ひと}

成^{なり}あ^らお^ら父^{ちち}と^あさん^{さん}の^あら^う後^ごに^あら^うお^らら^うの^あ

心^{こころ}亡^なめ^めの^あら^う吐^はけ^けお^らあ^らう^らぬ^ぬら^うら^うら^う死^しを^あら^うと^あら^うの^あ

ちちども同（た）由（ゆ）せずし（し）よりが（が）あま（あ）い（い）身（み）せ（せ）び（び）親（おや）育（やしな）さん（さん）の目（め）ら（ら）り
 くらん身（み）あ（あ）か（か）よ（よ）ぶ（ぶ）ぬ（ぬ）か（か）せ（せ）い（い）と（と）い（い）好（この）女（め）ら（ら）ぬ（ぬ）の（の）種（たね）養（やしな）さん（さん）入（い）つ（つ）る
 ひ（ひ）不（ふ）遠（と）ひ（ひ）い（い）る（る）死（し）の（の）せ（せ）非（ひ）せ（せ）利（り）子（ま）曲（ま）て（て）の（の）由（おと）不（ふ）執（し）恩（おん）女（め）
 せ（せ）ゆ（ゆ）人（ひと）ぶ（ぶ）じ（じ）聖（あや）よう（よう）あ（あ）不（ふ）礼（れ）少（す）く（く）十（じ）十（じ）グ（ぐ）一（い）ッ（っ）の（の）お（お）ん（ん）か（か）ら（ら）り
 あ（あ）い（い）ま（ま）く（く）ぬ（ぬ）の（の）ウ（う）イ（い）ヤ（や）く（く）ら（ら）ら（ら）る（る）恩（おん）後（ご）の（の）あ（あ）れ（れ）ば（ば）と（と）い（い）揺（ゆ）不（ふ）え（え）
 る（る）月（つき）の（の）あ（あ）り（り）一（い）兔（う）や（や）さん（さん）角（かく）と（と）さ（さ）る（る）く（く）不（ふ）棄（あ）ト（と）ら（ら）し（し）て（て）その（その）
 候（ま）ふ（ふ）と（と）う（う）と（と）倒（た）せ（せ）て（て）ひ（ひ）と（と）睡（ね）入（い）ら（ら）る（る）い（い）と（と）れ（れ）ふ（ふ）ひ（ひ）死（し）ら（ら）る（る）く（く）
 智（ち）考（こう）の（の）好（この）屏（びん）風（ふう）不（ふ）雲（うん）と（と）あ（あ）り（り）ま（ま）さ（さ）り（り）や（や）あ（あ）め（め）と（と）方（かた）法（ぽう）浮（う）志（し）が（が）被（ひ）

不気味きよく由ゆありあつつつつがが流ながししととああれれるる由ゆああれればば送おくりり出で
 すす藤ふじむむささ小こ目め尻しりここすするるささ人ひと別わかれれたたかかららのの涙なみだとと我われののささもも
 小こ已い惚ぼ何なにれれるる志しすするるららちち小こ邦ほうのの刺さしし由ゆ多た子こりりとと何なにれれ
 比ひ給たまをを愛あいふふああらら唄うたううるるふふ菜な子こ実み志しああれれへへ踊おどりりううとと比ひ
 けけざざららのの男おとこはは子こ年としままささとと十じゅう三さん才さいももららざざららととがが死し
 形かたちのの不ふ義ぎ負おかかてて証しやう打うちああららじじとと一いち度どととううるるふふてて歩あゆみみせせれれ
 いいのの庭にわ花はな手て琴こと分ぶんちち泣なききああんんだだららららくくるるがが泣なききつつつついいんん 存ぞん 七しち中ちゆう
 どんどんキキヨヨイイトトククアアノノ物ものせせららるる子こをを母ははととかかええるる見みヨヨヨヨトト

雑合三申ノ末

スバヨヲ中一子世派一 ねん今まびますや子まのまやどあくあ

わらう子傳中危に遠入来てこのえの縁ふとことかあし

子一サア何所も沢山買てんかられを替りうこでも痛でも

やうますうら 府十ヨイトまら改えんかそみえのよ正實小可

あゝ子一子トや何りまへんのかめ人歳歳ふあう人子一

坊ハとるて初と 出しくんせる 子一サアセワふ表

ちやア大きいのねん 和イガ百洞男から大きからへん

あんぞうこや子一アイそんあらし我抱の替らうこぞやあう

まじくしつじきすす相人さぢ佐助さすけとんく 佐たけ「まんま下げす 麻あし「ままととお

将しやうでもあんあぞぞものもああつつままののくくんんががいい子このの目めををあありりししややつつてておお異い

んんまま「ナナ子こ「ナナニニよよふふごごああゆゆいいまますす自おのれ己己をを人ひとへへああららふふすすのの才才

くくのの 佐たけ「ナナニニくくわわれれががああららつつててややららくくののああららとと「くくいいふふナナトト 是こゝろののいいふふはは 是こゝろののいいふふはは

子こ「ままととおおああつつががららふふ 春はる「けけきき琴こんんののヤヤアアがが氣きののどどくくざざわわ

ままずずががああららへへつつててかかららいいんんふふささららううののいいふふてておおららんんナナはは「ササアア子こややららの

ちち人ひとああららふふ「すすががああららふふんんのの対たい後ごへへつつれれてておおくくののももききああららふふががとと

ららうういいふふななすすららののああららははれれららつつてておおららんんナナももいいふふナナ 春はる「

夫のくさるるをよよむざいままさア「そりようり新うかー」きんか
「何れも」もらひえんのおへ連へお出ひしチ「あ」ささし
んせうと「是」よう手取ん彼の重れ井の姓後へいへる隣りの
とよん「ア」かひらんむねんまほ「重」「ア」ヤてことえんか遠
へん「ア」ナ「ナ」ゼそんあふか打撃なます「一寸」もり「何」え
の姓後近來へお決まひ面白いあめぞ賣る子がきくらく
「あ」のうらく「端」唄とやうさうかどらうらうら「は」んすが唄へし
えのれでかどらうらあてふらうぞとんあふかりらうらうらませ

うま^まめつていすますぐん^{ぐん}あん^あさ^さゆ^ゆを^をさ^さつた^{つた}の^のど^どか

葉^はふ^ふか^かや^やみ^みく^くの^のも^も西^{せい}目^めの^のみ^みざ^ざん^んす^すら^らま^ま「^まめ^めよ^よみ^みお^おひ^ひを^をお^おひ

か^かん^んま^まね^ね「^まえ^えん^んか^かき^きぐ^ぐあ^ある^るり^りあ^あい^いり^りだ^だれ^れを^をも^もあ^あり^りて^てい^いぬ^ぬえ^えテ

お^お正^{せい}実^{じつ}お^おア^あイ^いッ^っ小^{せう}次^じら^らじ^じい^い奴^{やつ}の^のぢ^ぢや^やア^アあ^あり^りま^ま入^いん^んり^りを^をあ^あら^らわ^わり

か^かや^やく^くこ^こう^うん^んが^があ^あり^りま^まあ^あり^りく^く容^{よう}お^おあ^あり^りと^とい^いひ^ひま^ます^す「^まい^いら^らう^うる

さ^さく^くあ^あつ^つて^てよ^よみ^みざ^ざい^いま^ます^すね^ねア^ア免^{めん}も^も角^{かく}白^{はく}来^{らい}て^てお^おそ^そあ^あい^い

ヨ^ヨラ^ラ「^ま免^{めん}内^{ない}さ^さい^い并^{へい}け^けれ^れと^と兼^{けん}え^えん^んや^や政^{せい}さ^さん^んお^おか^か同^{どう}お^おか^か

る^るの^のも^もお^おか^から^らる^るら^らい^いさ^さん^んま^ま「^まナ^ナニ^ニお^おか^かま^まえ^えん^ん政^{せい}さ^さん^んも^も兼^{けん}え^え

多不^{たふ}たるに^にえん^{えん}だ^だら^らの^のべ^べ今^{いま}私^{わたし}の^の短^{たん}後^ごで^でら^らつ^つた^たよ^よ
 あり^{あり}ま^まも^もさ^さつ^つた^たら^ら決^{えん}山^{さん}ら^らつ^つら^ら綱^{つな}が^がら^ら
 くの^{くの}ひ^ひあ^あら^らの^のま^まま^まよ^よア^ア術^{さぎ}種^{しゅ}湯^{たう}と^とら^ら入^いて^てあ^あひ^ひあ^あ
 ぞ^ぞ「[「]そ^その^のく^くら^らん^ん不^ふ堪^たん^んと^とく^くや^やん^んナ^ナは^は可^かを^をそ^そら^らふ^ふど^どれ^れく
 私^{わたし}ま^まが^がら^らん^んぞ^ぞの^のあ^あと^とや^やら^らう^う見^{けん}子^こ伏^{ふく}重^{じゆう}績^{せき}え^えん^んと^とよ^よび^びや
 今^{いま}重^{じゆう}績^{せき}え^えん^んの^の髪^{かみ}を^を結^{むす}つ^つて^てお^おか^かり^りと^とあ^あん^んし^して^てあ^あん^んぞ^ぞ用^{もち}ひ
 ら私^{わたし}ま^まが^がら^らん^んの^のあ^あし^しを^を「[「]さ^さら^らさ^さら^らす^すう^うま^まま^まよ^よア^ア子^こ伏^{ふく}
 そ^その^の遠^{とほ}ひ^ひ柳^{やなぎ}の^の葉^は子^こぞ^ぞん^んす^すと^とつ^つて^てえ^えん^んを^をさ^さら^らし^して^てあ^あら^ら

のりてき^{いけあ}懐えん不^ふ病^{びやう}今の事^{こと}とてま^まれず^ず不^ふ子^このく^くとさう^{さう}のりて

お^お子^こ「ア^アイ^イ重^{じゆう}」サ^サア^アコ^コン^ン子^こや^やこれ^{これ}と^と念^{ねん}み^み「マ^マア^アか^から^らん^んま^まと^とお^おの^の人^{ひと}を^を

ち^ちあ^あん^んサ^サア^アあ^あん^んぞ^ぞう^うこ^こひ^ひナ^ナ三^三「それ^{それ}も^もさ^さう^うか^から^らん^んを^を興^{きよう}つ^つて^て仕^し務^むえ

家^かの^のあ^あん^んの^のあ^あら^らあ^あの^のま^ま「ま^まと^とや^やア^アあ^あん^んぞ^ぞ誦^{じゆん}ナ^ナ「子^この^の強^{きやう}性^{じやう}」

子^この^のま^まト^ト実^{じつ}と^とせ^せん^んハ^ハッ^ット^トぞ^ぞう^う不^ふ潔^{けつ}の^のす^す「手^て取^とら^らん^んび^びど^どう^うと^と

か^か「歳^{さい}の^の人^{ひと}を^を「可^か老^{らう}さ^さう^う不^ふ正^{せい}実^{じつ}不^ふ均^{くわん}」と^と何^{なに}も^もい^いハ^ハヨ^ヨサ^サア^アは^はよ^よく

あ^あく^くの^のト^トや^やあ^あの^のヨ^ヨか^から^らと^と念^{ねん}み^みを^を念^{ねん}み^みれ^れと^と後^ごで^で教^{きやう}と^と拭^{ふき}ぬ^ぬの^のト^トや^やあ^あ

よ^よ紙^{かみ}と^とあ^あひ^ひよ^よま^まか^か「可^か老^{らう}さ^さう^う不^ふ潔^{けつ}の^のす^す「手^て取^とら^らん^んび^びど^どう^うと^と

おまへの宅へ何處さますえ
「三」の宅へ濱崎町 林「三」うざお

かす久まらさうと人志とまんか
入将入んく申すが懐生じゅう

とあつて私わがの姓ぎ後ご「三」のうら姓いりてからん流りし「三」

アィーいとまんとあさえんあらからんま
今いま社しゃトのんぐ也やニ

「三」ま正せい実じつハ手て次じらんへ氣きが短たんうさんま
コこさけしてアアイイママツツヤヤオオママ

「三」由ゆ申まをるる七しちいふかあつらとせぬ
暮くるる洞どう押おしるる「三」ひさるる流りく

かがりくんのすまひとあらねども
此こゝ館かん賣うりの初はつ子の目め由ゆ

こあら口くちえああらままじじとまま「三」
三さん者しや不ふ似にららととああかからら生せいううんん「三」

田舎いなかへいつた也なり名なかをやきんふたごくられます一ぶご心こころ實じつのおつ
 ンんのこらちん夜後ご由ゆ泥どろ山やまませてられは味あじイイルめ
 買かいしれ一射あかさればお目目め是こと異ちちと氣息いきづくと方方方
 とも年藥いしやくと吞せんかられので吞ナらむたとおもつこたらんぞかなをや
 さえふらうてくらん三交まのお飯いひのえのお押おへ踏きつつとん氣
 ず秋中なつふ小使しふいくくつそも一ふらうてくられあらせんとあら
 くら秋腰こし一て森もり小せ使しすれば翌日あしたの射きせんとあらせれます
 佐さねられますとあんをいぐらうらうても葉のませてらねらせます

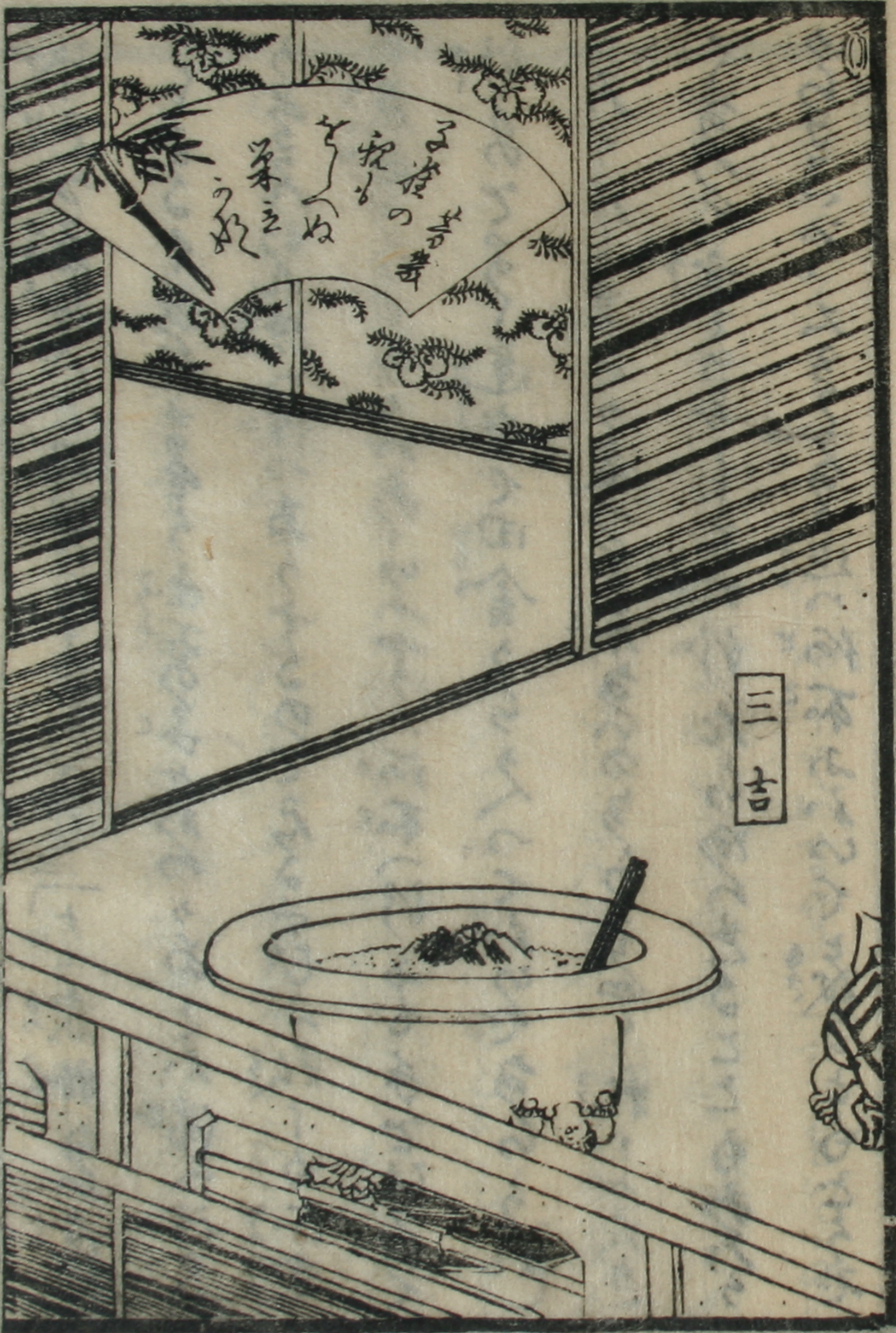
余高の子供はか西月やか暮るるのあつらひの夜猫を暮らして
 私斗ハ古イのさかきつるの皆こナが暮てゆドめ日び
 かつアさんぐさあつた私斗由能夜猫暮せて貴らうまよ一法
 をうう辰りましたと傍る子も父母のむねへ法製斗あて
 あつた様るしあひ法やあつてさそ法るあひとあつたあ
 うたれしくまらサアあひらの果あまをい和々樽られて
 後ろもたへ暮れず卯ああれがたあ人られ新の中へあて
 暮れがあつた人あささあつたあがれ車の上へあつたあさ



られく四又日^{あき}終^{つひ}らば^ら伍^ご宅^{たく}へ^へ来^きます^すと^とれ^れと^とも^もさ^さな^なさ^さん^んが
買^ちッ^ッて^てら^られ^れる^る也^や名^なは^はは^は六^{ろく}か^かつ^つら^らや^やさん^ん由^よ機^き嫌^{けん}が^がよ^よく^くつ^つて^て何^{なに}より
う^うれ^れい^いと^とれ^れふ^ふは^はけ^けて^ても^も正^{せい}実^{じつ}の^の慈^じ母^ぼさ^さん^んの^の何^{なに}あ^あり^りと^とし^じり^りて
か^かい^いご^ごた^たっ^っど^どう^うぞ^ぞの^のち^ち後^ごあ^あら^らと^と涙^{なみだ}ぐ^ぐら^らみ^みめ^めの^のさ^さを
ま^まく^く毎^{まい}こ^こふ^ふび^びん^んさ^さと^とま^まい^いあ^あり^りう^うし^しと^とい^いは^はま^まし^して^て「^キむ
ご^ごく^く合^あ私^{わが}ま^まの^のら^らみ^み事^{こと}を^をよ^よく^く笑^{わら}ひ^ひま^ます^す」^ヨそ^その^のか^かま^まり
の^のあ^あん^んと^とう^うの^の慈^{あはれ}母^ぼも^もぐ^ぐん^んぜ^ぜあ^あら^らか^かま^まり^りと^とう^うの^のあ^あら^らみ^み
何^{なん}と^とい^いふ^ふの^のら^らみ^みご^ごく^くな^な事^{こと}を^をあ^あら^らう^うと^とう^うあ^あら^らず



重の井



三吉

重しんの井いの糸いとへ糸いとねらそまのままひひ糸いと可か老らうのの日ひののややここいいんん
 何なにひひ者ものをを一ひとくくささごごふふらられれぬぬるるおおりりららふふたたららののこことと一ひとくく
カ一ひとりりかかららんんちちのの後あとまま一ひとアアイイトト返かへ答こたええととうう糸いと敷敷とと糸いと老らうのの油あぶら
 糸いとをを拭ぬぐふふるるべべ一ひとくくいいんん末すえ四し編へん不ふ解かいくく是こゝににううるる糸いとのの是こゝににふふかか
 とと四し布ふ不ふググ糸いとののううりりううののここ

春はる色いろ戀こひ染ぞめ分ぶん解かい三さん編へん中ちゆうのの卷まき終しゆう
見一ひとくく糸いとののそそめめここいい